

# 主任コラム8月号

主任 澤井 良子

暑い日が続きますが、保育園では水遊び・泥んこなど夏ならではの遊びを思いっきり楽しんでいる子どもたちの声が毎日響いています。熱中症に気をつけながら、たくさんの体験を通して心も身体もたくましく成長できたらいいなと思います。

私は、毎日先生達書いている日誌を週末に読んでいますが、その中のうさぎ組の先生が書いた日誌に

【西の広場と園庭から好きな方を選択した。選ぶときは、ホワイトボードを2つ用意し○を書いて人数を決めていたため（選択する場所の写真と、それぞれに人数分の○が書いてあるところに自分の顔写真を貼ります）散歩の方が先に埋まってしまいどうするかな？と見ていると、A君は散歩がいっぱいだと気づくと「もう貼れない」と話していた。保育士が『そうだね。どうしよう』と問いかけると「うーん」と悩みながらも「こっち」と西の広場の方に貼っていた。今回のようにいっぱいになった方を選びたい子がいれば相談して決められるようにしていければと思う。】



←ホワイトボードと○枠  
子ども達の顔写真。



←自分がしたい活動を選  
びます。

という内容があり、私は2歳児で自分のしたい活動の○の枠が全部埋まってしまった時に、自分で他の活動にしようと気持ちを切替える能力が育っていることに驚きました。私はうさぎ組の先生にまた○で人数を決めて選択活動をする時は呼んで欲しいと伝え、後日、朝の集まりの様子を見に行きました。

その日は欠席の子がいたため、子ども達の選び方によっては上のエピソードのようなことは見れないかも知れないな…と思いながら見ていました。2つのうちの片方の活動が人気でBちゃんの番が来た時に○が埋まってしまい、Bちゃんがボードを見て固まっていると、保育士が

『どうする？Bちゃんもしたいけど○あいてないの。どうしようか？』と子ども達に投げ掛け、少しすると、Cちゃんがボードの前に来て自分の顔写真を動かしてBちゃんに譲ってくれました。その姿にBちゃんにも笑顔が見られ、Cちゃんも保育士に褒められて嬉しそうな表情を浮かべていました。



今、非認知能力という言葉を目にする事が多いと思います。非認知能力とは、簡単に言うと点数では測りにくい「生きていくために必要な能力」です。その中でも、このエピソードは【共感性】に当たると私は思いました。他者の状況や気持ちに目を向け、気持ちに共感したり、理解したりする特性とあります。2歳児で友達の気持ちに気づき譲ってあげられるという事が、集団生活の中で友達や保育士との関わりの中で育っていくのだと思うと、子ども達にとっての環境や、人・物が与える影響の大きさを感じます。私たち保育士は、日々、この大事な乳幼児期に目の前にいる子どもたちにどのような力をつけてあげたらいいのかを考えながら、保育していきたいと思ひます。



30日の夏祭りにご参加下さりありがとうございました。9時半からスタートし16時50分まで分散して行いました。少しの時間ではありましたが、親子で楽しんで頂けていたら嬉しいです。金曜日には、準備の為のお迎えのご協力ありがとうございました。

《職員も事前打ち合わせ》



《子ども達と保育士の素敵な作品》



《夏祭りスタート》



最後の親子おんどは、『先生、動画見て家で練習したよ』という保護者の方の声や、お父さんたちのノリノリのダンス姿。子ども達の嬉しそうな笑顔で終わりました。保護者の皆様ありがとうございました。